

背景

北とびあは、1990年の竣工・開館以来、多くの区民に利用されてきた。今回の改修では、これまでの北とびあのレガシーを継承するとともに、現状の課題を改善し、取り巻く周辺環境の変化に対応した新しいニーズを取り込み、機能の拡充を図る。

【社会・周辺環境の変化】

自然環境	激化する自然災害への対応、脱炭素等
多様性	バリアフリー、ユニバーサルデザイン等
人口	人口減少、高齢人口の増加、少子化等
技術革新	通信技術の向上等

【北区の状況】

環境配慮	令和3年6月北区ゼロカーボンシティ宣言
人口	2036年に約36.5万人をピークに人口が減少に転じ、年少人口は2033年まで増加見込みの推計
王子駅前	王子駅周辺まちづくりグランドデザイン、新庁舎の建設等の検討

【現在の北とびあ】

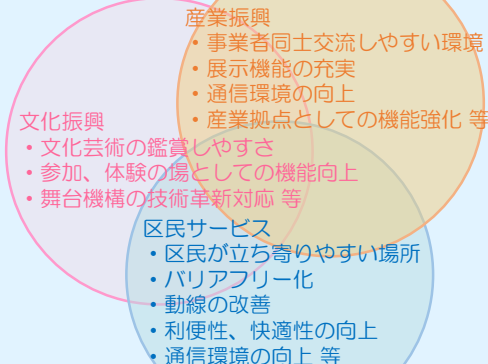
設置目的	産業振興、文化振興、区民サービス
老朽化等	竣工後30年経過し、建物・設備の劣化、機能の低下、陳腐化が進行
利用者	年間約97万人（H27～R元の平均）
稼働率	ホール、会議室などの利用率は約70%超と、稼働率が高い（H27～R元の平均）



改修すべき項目

課題	概要
老朽化対策	老朽化した設備、備品等の更新
バリアフリー対応	建物全体のバリアフリー化、動線の改善
防音・振動対策	ホールや会議室などの振動や音漏れ対策、各室の使い方の整理
技術革新への対応	通信環境などの技術革新に合わせた設備の更新
ホール機能の向上	音響や照明など舞台機構や客席の老朽化対応
安全対策	地震、風水害対策など自然災害に対する安全対策の強化
利便性向上	テナント機能の見直し、エントランスロビーの混雑緩和など、利便性を向上
快適性の確保	施設の暗さやトイレの数、室内空気環境など、利用者の快適性の確保

目指すべき将来像



改修後の施設コンセプト

北区の産業・文化芸術を育む、にぎわいの交流拠点 北とびあ

改修基本方針

方針1	産業・文化・芸術活動の拠点施設としての機能向上
方針2	バリアフリー対応とユニバーサルデザインの充実、安心安全の確保
方針3	施設の長寿命化への対応と環境負荷の軽減
方針4	さまざまな人びとが集い、交流し、にぎわいを創出する施設へ

ゾーニング	諸室・エリア	用途・機能	改修基本方針			
			1	2	3	4
文化芸術ゾーン	ホール、音楽スタジオ等	区民の文化芸術活動の場	○	○	○	
にぎわい・憩いのゾーン	エントランス、テナント、キッズ、ホワイエ等	テナントやキッズエリアなど区民のにぎわいと憩いの場		○	○	○
産業・事務室ゾーン	執務室、入居団体の事務室等	産業支援団体などが入居する産業振興の場	○	○	○	
貸室ゾーン	貸し会議室等	会議室や和室など、区民の多様な交流の場		○	○	○
駐車場	駐車場	区民の交通利便性のための機能		○	○	

改修スケジュール

令和9（2027）年4月からリニューアルオープンを目指す。なお、北とびあの休館期間は令和7年度から令和8年度までの2年間を予定している。

年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
設計期間	基本設計	▶				
	実施設計		▶			
改修工事期間				▶		
管理運営期間						4月～開館

エリアごとの改修対応検討項目

高層階エリア

①④

テナント誘致の可能性なども含め、使い方に合わせたレイアウトを計画する。

飛鳥・ペガサス・カナリア・スカイホール

①②③

各ホールの機能と役割を整理し、防音性能の必要性和工事可否、及び程度について検討する。

つつじホール

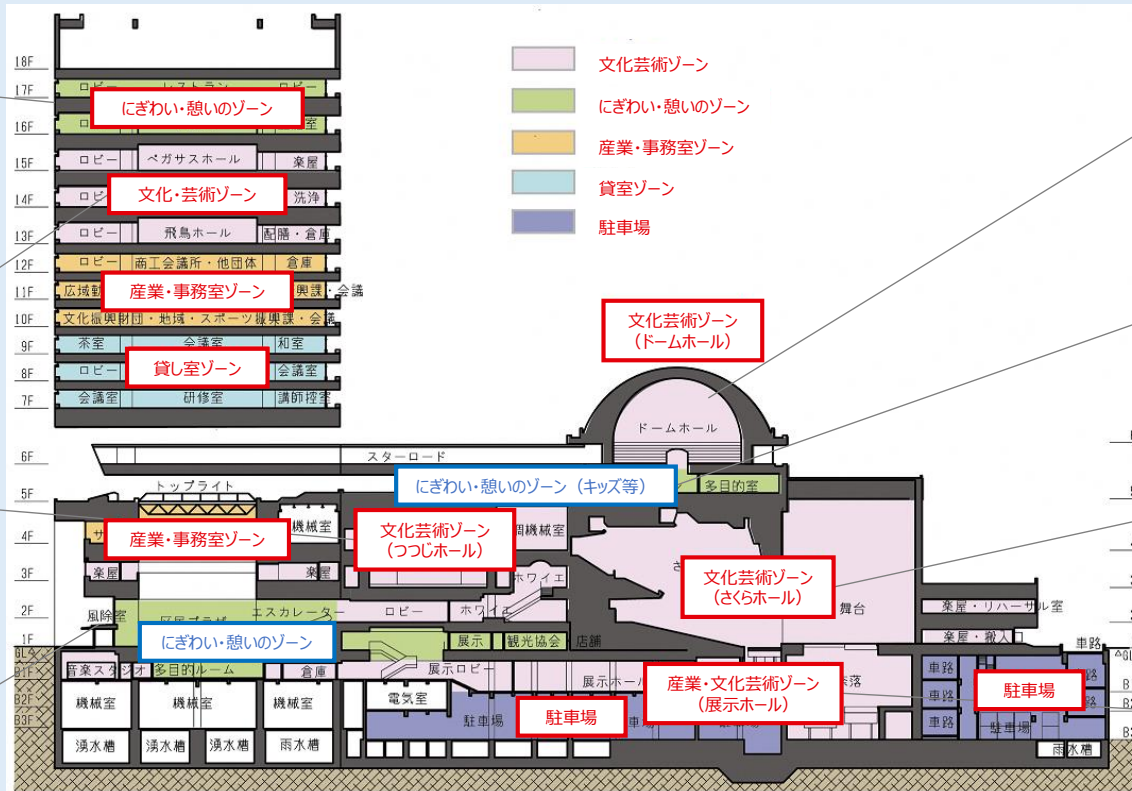
①②③

現ホールの機能を継承しつつ、聞き取り易く明瞭度の高いホールとして機能の充実、向上を目指す。

1階区民プラザ

①②③

明るく開放感があり、フレキシブルな、にぎわいと憩いの空間としての機能の充実を図る。



ドームホール

①④

より多彩な客席部の形状の検討、及びドーム型を活かした催しができるような検討する。

にぎわい・憩いのゾーン (キッズなど)

①④

将来を担う子どもたちが、文化芸術や産業に触れる仕掛けを導入し、新たな利用層の誘発を図る。

さくらホール

①②③

現ホールの機能を継承しつつ、豊かな響きを持つホールとして機能の充実、向上を目指す。

展示ホール

①②

展示室としての機能を維持しながら、動線を改善する。エレベーターの設置や展示品の搬入ルートを検討する。

施設全体への改修対応検討項目

BCP災害対応

②

地震や台風などの水害を伴う自然災害等を念頭に、防災対策、BCP対応のための改修工事を検討する。

DX対応

①

時代の変化にフレキシブル対応できるように、通信環境の計画を検討し、利用者の利便性の向上を図る。

バリアフリー

②

ユニバーサルデザインの観点から、床面の改修、トイレ機能の充実、施設の内サイン、色彩計画等を検討する。

環境対応

③

「北區ゼロカーボンシティ宣言」の実現に向けて、ZEB Orientedへの適合を検討する。

地下1階

②④

サンクンガーデンとの一体的な空間の創出、テナント誘致、人の流れを誘引する設えや機能等について検討する。

機械室等

②③

電気設備、空気調和設備、給排水衛生設備は全て更新することを前提に、初期費用、LCC、LCCO2に配慮し改修を検討する。

外構

②④

明るい雰囲気となるよう、外観の印象を改善し、効果的な情報発信の方法や、広場の有効な使い方についても検討する。

防水・外壁

②③

周辺への影響を調査し、十分配慮した上で、老朽化による漏水やタイルの剥落箇所に対応し、防水改修などを行う。

内装

②③

既存材料の有効利用を検討しながら更新する。執務環境の変化にフレキシブルに対応できる事務スペースの検討を行う。

館内LED照明化

②③

LEDへの切り替えを前提に、用途や運用に応じた適正な計画とする。特に区民プラザは調光可能な照明の導入を検討する。